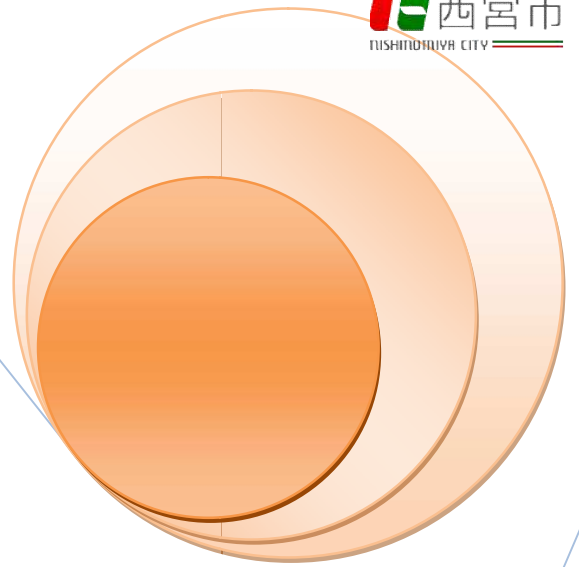


リーくるくん

ごみ減量化・再資源化のシンボルとして
平成6年に生まれました



御前浜と夙川の河口付近

チャレンジにしのみや25

にしのみやし ごみげんりょうすいしんけいかく
～西宮市ごみ減量推進計画～
(家族版)

西宮市では、ごみの減量を目的とした計画をたてました
「ごみ」の減量について家族で考えてみよう！

西宮市環境事業部美化企画課
平成26年8月

もくじ

けいかく もくてき

計画の目的

p3

べんり しゃかい なか
便利な社会の中で

p3

しげん じゅんかんがたしゃかい
資源循環型社会

p3

ごみ の ゆくえ
ごみの行方

p4

にしのみやし げんざい

西宮市の現在とチャレンジにしのみや25

p5

にしのみやし じんこう と ごみ りょう うご
西宮市の人口とごみ量の動き

p5

ごみ を へ 減らす 目標 ~ チャレンジにしのみや25 ~

p6

やくわり こうどう

役割と行動

p7

役割とは？

p7

なに
何をすればよいのでしょうか？

p8

西宮市の取り組み

p9

さまざまな取り組み

p9

おわりに

p10

かんきょうもんだい げんいん
環境問題の原因

p10

もったいない「食品ロス」

p10

「NIMBY」というかんが 考え方

p11



りーくるくん

けいかく もくてき
計画の目的



便利な社会の中で

今、私たちは、たいへん便利な社会で生活しています。旅行のとき、忘れ物をして、コンビニなどで買うことができますよね。コンビニがない時代は、出かける前に忘れ物がないかドキドキしました。

企業などは、技術の進歩によって「もの」を安く大量につくることができるようになりました。そして、多くの店で安く売ることができるようになりました。そのおかげで、私たちは、「もの」をいつでもどこでも安く買うことができます。



その一方で、「もの」を簡単に安く買うことができるため、「使い捨て」社会になってきました。つまり、買ったから捨てるという考え方にかわってきました。そのほうが、便利で楽だからです。

そして、大量に物をつくり、大量に売るという「使い捨て」社会は、材料を多く使うことから「資源(しげん)」がなくなるかもしれないという問題や、買ったから捨ててしまうことから大量の「ごみ」を生み出すこととなります。



資源循環型社会(しげんじゅんかんがたしゃかい)

「資源」がなくなるかもしれない恐れや「ごみ」処理は、世界的な問題となり、多くの国々が解決する方法を考えました。私たちが利用している「資源」は、おもに石油などの 化石燃料(かせきねんりょう)のことです。私たちのまわりにいっぱいあるプラスチックも石油からつくられています。

化石燃料は石油のほかに石炭や天然ガス、シェールガス、メタンハイドレードなどがあります。調べてみよう!

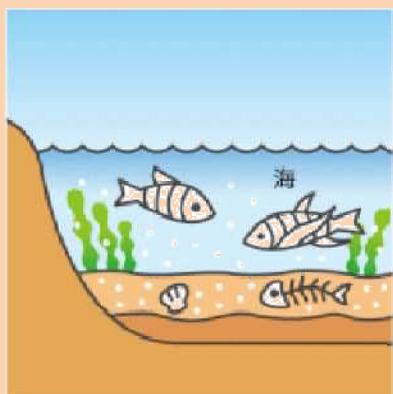


化石燃料は、大昔の地球上の生物や植物の死骸（しがい）などが、長い年月をかけて燃料に変化したといわれています。このまま、大量に使い続けるとなくなるかもしれません。

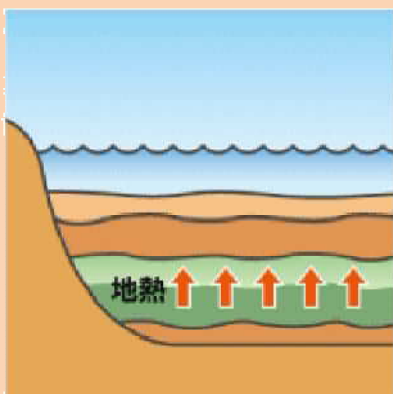
私たちが使う石油などの量は、地球がつくるスピードをはるかにこえています。

石油のでき方

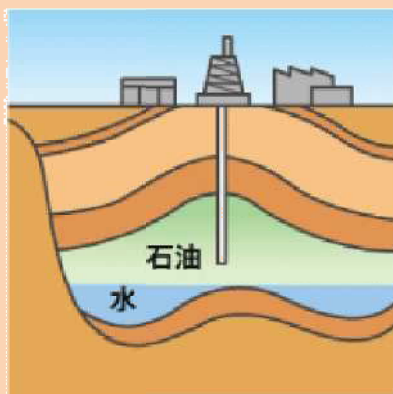
生物やプランクトンなどが死んで海や湖の底にたまったものが、土砂の重みや地球の熱によって何億年もの長い時間をかけて分解され、液状の石油になるといわれています。



生物などの死がいがつもる



地熱などで分解される



何億年もかけて液体になる

イラスト：四国電力HPより



ごみの行方

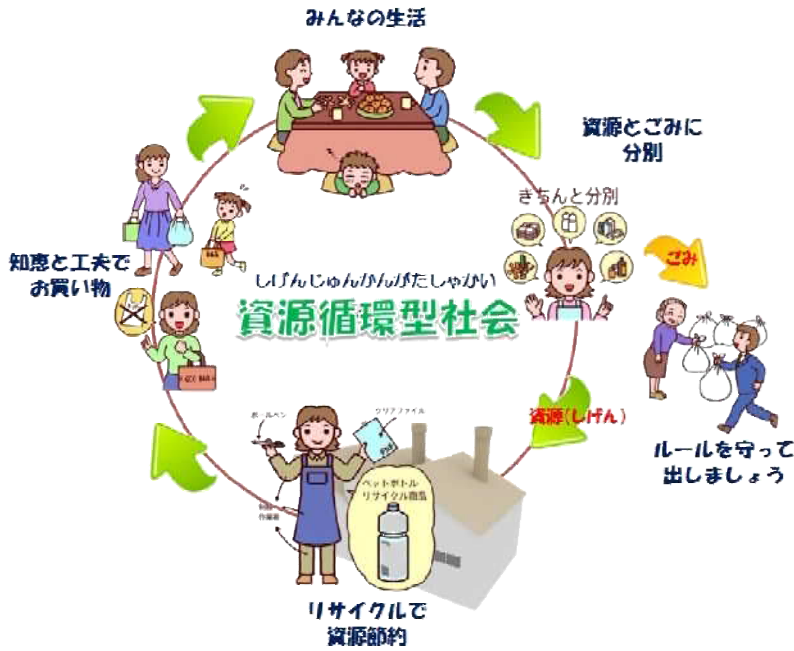
「ごみ」は焼却（しょうきゃく＝もやすこと）などの処理をされたあと、残った灰などを海や陸地に埋め立てます。この場所を最終処分場といい、有害なものが流れ出て自然や人間に害のないようにきびしい規則や基準があります。このため、つくる場所が限られ不足するという問題となっています。

大阪湾広域臨海環境整備センター 神戸沖処分場



写真提供：大阪湾広域臨海環境整備センター

西宮市では、「もやすごみ」などを焼却したあと、灰を神戸沖処分場に埋め立てています



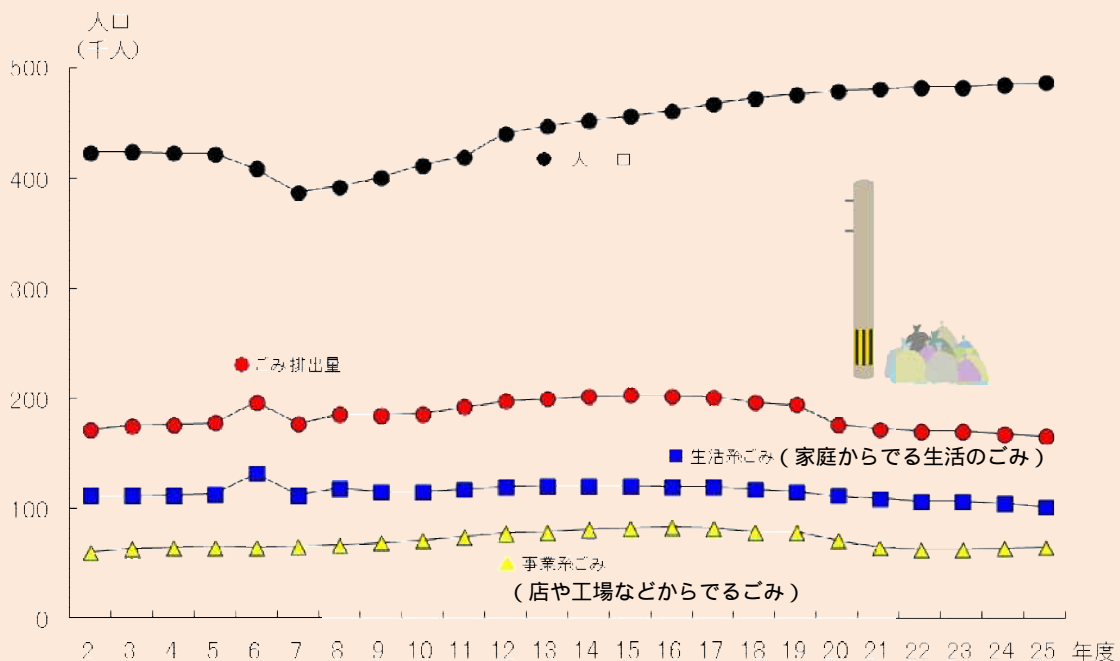
日本では、「ごみ」を少しでも減らそうと、「ごみ」の中から資源をとりだし、もう一度材料に戻して使うなどのリサイクルに関するさまざまな法律がつくられてきました。

不要な「もの」を「ごみ」だけにせず、利用できるものは再利用して「資源」を節約し、「ごみ」を減らして最終処分場を節約する社会を「資源循環型社会」といいます。

そこで、西宮市は、みなさんと協力して資源の節約や「ごみ」を計画的に減らそうという取り組みとして、「西宮市ごみ減量推進計画 チャレンジにしのみや25」を策定（さくてい=国や県、市が計画などを決めること）しました。

西宮市の現状とチャレンジにしのみや25

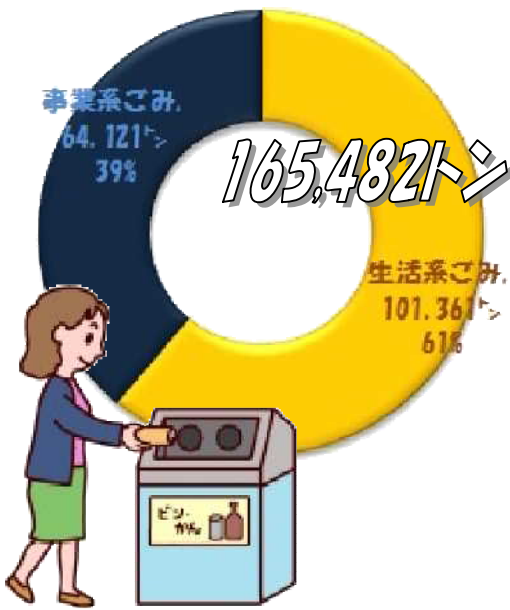
西宮市の人口とごみ量の動き



現在、西宮市の人口は 487,015 人（平成 26 年 6 月 1 日現在）で、平成 7 年におこった阪神淡路大震災の被害で住むところがなくなり、一時的に他の市に避難するなどして減りましたが、最近は少しずつ増えています。

「ごみ」の量は、阪神淡路大震災で一時的に大量発生しましたが、その後は、ほぼ横ばいになりました。みなさんの家庭からでる生活系のごみは徐々に減っていますが、お店や会社などからでる事業系の「ごみ」は少し増えています。

平成25年度のごみ量



平成 25 年度の ごみ量は、165,482 トンでした。このうち、生活系のごみは 101,361 トンで事業系のごみは 64,121 トンでした。

「ごみ」は「廃棄物」とよばれ、一般廃棄物（いっばんはいきぶつ）と産業廃棄物（さんぎょうはいきぶつ）があります。「廃棄物処理法（はいきぶつしゅりほう）」（「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」という法律で細かく分類や処分などの規則が決められています。

集団回収量などは除く

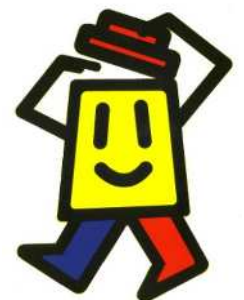


ごみを減らす目標 ~ チャレンジにのみや 25 ~

一人1日あたりのごみ排出量



平成 30 年度までに 1 人一日あたりのごみ量排出量を **870 グラム**にする！



りーくるくん

西宮市では、平成 20 年 3 月にごみの減量目標を定めた「西宮市ごみ減量推進計画チャレンジにのみや25」を策定しました。

平成 17 年度を基準として平成 30 年度までに、一人 1 日あたりのごみ排出量を 25 パーセント減量しようというものです。平成 17 年度では 1,161 グラムでしたが、平成 25 年度には 933 グラムまで減量しました。平成 30 年度の目標は 870 グラムですので、もうひとがんばりですね。

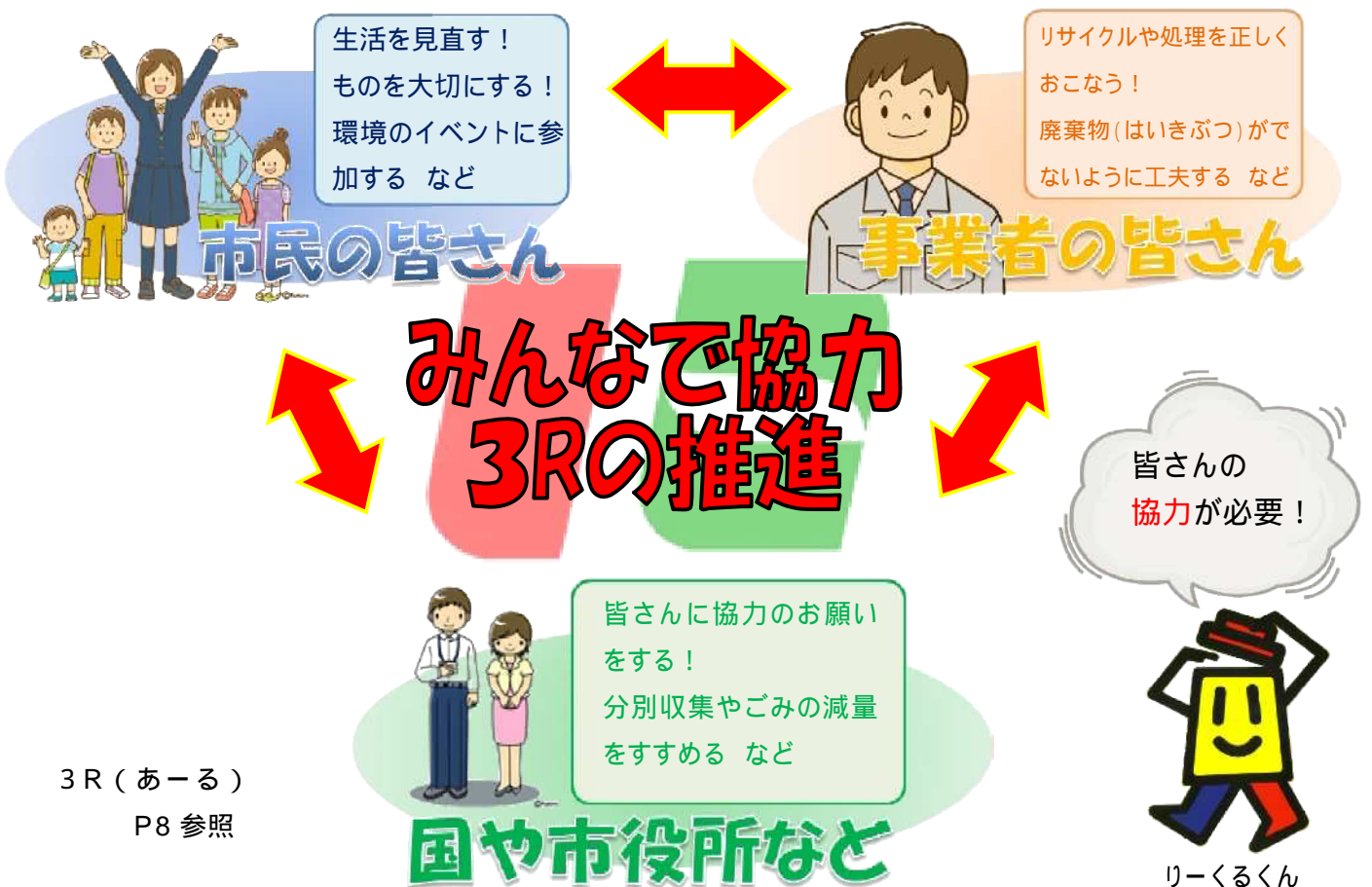
役割と行動



役割とは？

資源の節約やごみの問題については、解決に向けてさまざまな法律があります。その中で私たちの役割も定められています（「資源有効利用促進法」（しげんゆうこうりようそくしんほう）＝「資源の有効な利用に関する法律」）。

わたしたちの役割



3R（あーる）
P8 参照

何をすればよいのでしょうか？

皆さんの役割として、生活を見直すことや「もの」を大切にすることですが、実際にはどうすればよいのでしょうか。

そこで、リサイクルを進める考え方として「3R(アール)」があります。

まずはリデュース(Reduce=「ごみ」になるものを減らす)、次にリユース(Reuse=くりかえし使う)、そしてリサイクル(Recycle=「資源」としてふたたび使う)の「R」をとって「3R」といいます。

「3R」にそった行動を考えてみよう！

リデュース

まず、ごみになるものを減らそう！



買い物で余計な包装を断ろう
つめかえ商品を買おう
買いすぎないように、冷蔵庫の食べ物などをチェックしよう

普段の生活をチェック！

リユース

なんかいも使おう！



不用になったものは、ほしい人がいればゆずりましょう
リサイクルショップやフリーマーケットを利用しよう

他にもあるか考えてみよう！

リサイクル

資源にもどそう！



ごみをしっかり分別しよう
リサイクル商品を買おう
集団回収に協力しよう
リサイクルのことを勉強しよう

エネルギーには限りがあります！

リフューズ

ごみになるものを断る

リペア

修理して使う

3Rに「リフューズ」と「リペア」を加え5Rという考え方もあります

「資源」と「もの」を大切に！

西宮市の取り組み



さまざまな取り組み



りーくるくん

西宮市では、ごみの減量のためにさまざまなことに取り組んでいます。

リデュース

にしのみやしごみげんりょうとうすいしんいんせいど
西宮市ごみ減量等推進員制度

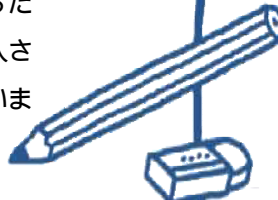
ごみの減量・リサイクルを推進するリーダーとして市民の皆さん約550名にお願いしています。



西宮市ごみ減量等推進員会議
代表者会議

なまごみしよりきどうこうにゆうひほじょ
生ごみ処理機等購入費補助

家庭の生ごみを減量するため、生ごみ処理機などを購入された方に補助金を交付しています。



リユース

いらなくなった「もの」などは、人にゆずったり、フリーマーケットなどを利用して再利用しよう。

おもちゃのかえっこバザール



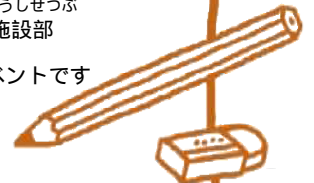
こどもが店主のフリーマーケット



いきいきごみ展



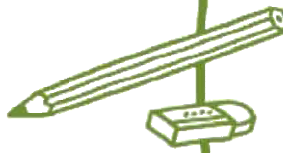
かんきょうしせつぶ
環境施設部
のイベントです



リサイクル

しげんしゅうだんかいしゅうじっだんたい しょうれいきん こうふ
資源集団回収実施団体に奨励金を交付

再生資源(さいせいしげん)の集団回収をおこなっている団体に奨励金を交付しています。回収量にたいしてお金を助成します。



リフューズ

かいものぶくろじさんうんどう
買い物袋持参運動

買い物袋を持っていくことで不要なレジ袋を受け取らない取り組みをすすめています。



西宮市レジ袋削減推進委員会

リペア

じてんしゃしゅうりきょうしつ
自転車修理教室



かんきょうしせつぶ
環境施設部
のイベントです



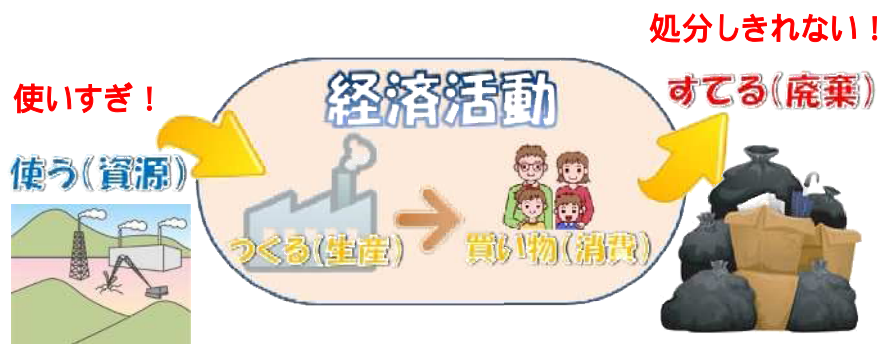


環境問題の原因

「ごみ」を含めた環境問題の原因は、私たち人間の「**経済活動**（けいざいかつどう）」であるといわれています。「**経済活動**」とは、会社などが「**資源**」を利用して「**もの**」をつくり、私たちがそれを買って使うことをさします。日本が約 50 年まえに成長期にはいり、「**経済活動**」が大きくなることで「**もの**」が安くなったりするなど、みるみるうちに私たちの生活が便利で豊かになってきました。

「**経済活動**」が大きくなると、大量に「**もの**」をつくり、大量に「**もの**」を買うことから、「**資源**」の使いすぎによる化石燃料（石油など P3～4 参照）の不足と、使い終わったものを大量にすてることから、「**ごみ**」による環境汚染（かんきょうおせん＝自然環境などを汚してしまうこと）などが問題になってきました。

「**経済活動**」が大きくなった！

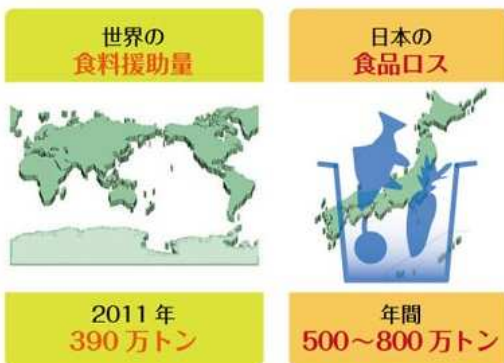


イラスト：一部四国電力HPより

資源がなくなると「**もの**」を生産することができないし、「**ごみ**」があふれ環境汚染がすすみます。汚染などで地球環境をこわしてしまうと、バランスが崩れ、異常気象の発生や温暖化がすすむなど、私たちは今までのように豊かな生活することができないかもしれません。

「**ごみ**」ふくめ、環境問題は私たちの「**経済活動**」が原因であることも知っておきましょう。

もったいない「**食品ロス**」



※WFP発表の数値

1人1日おにぎり1～2個分の食べ物が捨てられている日本

日本国内における年間の食品廃棄量は、食料消費全体の2割にあたる約1,800万トン。このうち、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられたはずの、いわゆる「**食品ロス**」は500万トン～800万トンとされています。これは、我が国におけるコメの年間収穫量（平成24年約850万トン）に匹敵し、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量（平成23年で年間約390万トン）を大きく上回る量です。また、日本人1人あたりに換算すると、「おにぎり約1～2個分」が毎日捨てられている計算となります。（HP 政府広報オンラインより）



「NIMBY(ニンビー)」という考え方

「NIMBY」を知っていますか。

「NOT IN MY BACK YARD (ノット・イン・マイ・バック・ヤード)」といい、「裏庭に、いきません！」という意味です。

皆さんは、ごみ処理場は絶対必要だと思っていますが、もし自分の家のとなりに建設されることになったら心配になり、他の場所にいてほしいと思うかもしれません。

「NIMBY」は、「ごみ」などの問題は頭ではわかっているけど、なかなか身近な問題として考えることが難しいということをあらわしたものです。



「ごみ」を減らすことは、私たち一人ひとりの心がけでかわります。

3Rや「分別」を再確認するなど、できることから少しずつはじめてみましょう！

製作 西宮市産業環境局環境事業部美化企画課

電話：0798-35-8653

メール：gomigen@nishi.or.jp